

「応援します!! あなたの農業」



あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 4 2 号 平成 2 5 年 1 1 月

発行元 福島市中町 8 番 2 号
財団法人福島県農業振興公社
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

若いパワーで「食」と「ふるさと」を発信！

～福島県農業青年クラブ連絡協議会が『ふくしま農見本市』を開催～

平成25年8月25日(日)、福島県農業青年クラブ連絡協議会(県連：折笠明憲会長)は、『第23回ふくしま農見本市』を郡山市のビッグパレットふくしまの外会場で開催しました。

昨年は猛暑の中の開催でしたが、今年は気温28前後で適度の風もあり、絶好のイベント日和となりました。



農産物・加工品の展示販売

例年、来場者数の確保が課題でしたが、外会場のテント前に休憩所(16テーブル)が設置されたことや餅つきを復活したこと等により、『24時間テレビ愛は地球を救う』の来場者の多くが当会場に移動し、大盛況の農見本市となりました。

来場者の中には、「テレビ中継を見て農見本市に駆けつけた」という人も多くいました。

また、今年は、昨年のテーマ「風評被害の払拭」からステップアップし、「若手農業者が元気に頑張

っている姿」をアピールしました。

会場では、県連加入6クラブのほか、福島市農業後継者連絡協議会と喜多方市のサークルつばさも参加し、約60名のクラブ員が自慢の農産物(もも・ぶどう・トマト・キュウリ・キク等)や加工品(もち・ももジュース入りかき氷・焼きアスパラ・牛串焼き等)を販売しましたが、商品完売のクラブも出現しました。

県連執行部員は、「休憩所の設置等により人の流れが大きく変わる」ことを学び、今後のイベント成功へのヒントをつかんだようです。



消費者で賑わう農見本市会場

農見本市の片付けと閉会式後、各クラブが店頭を設置したチャリティー募金箱を集約し、24時間テレビの本部に引き渡した執行部員の表情には、達成感と充実感が満ち溢れていました。

農地中間管理事業制度 今臨時国会において成立か！

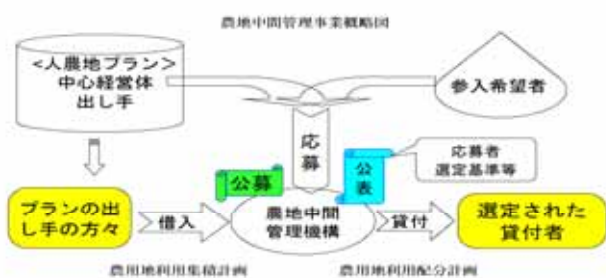
農地中間管理事業は、政府の産業競争力会議における攻めの農業の大きな柱として位置づけられ、これまで新聞、テレビ等で報道されております。

農地中間管理事業の法案は、「農地中間管理事業の推進に関する法律案」等で、10月25日閣議決定され国会に送られました。今後、国会での審議を経て12月初旬には成立・公布の見込みとなっております。

福島県においても、11月14日郡山市のハイテクプラザにおいて県農業担い手課が主催する説明会が開かれ、東北農政局から現在の状況や法律案概要等についてご報告をいただいたところです。

農地中間管理事業の実施機関は、県知事が申請を受け農地中間管理機構として各県に1つ指定し行なわせることとされ、福島県では、当公社が指定を受ける方向で検討が進められています。

農地中間管理事業の目的は、「農業経営の規模拡大、農地の集団化、農業への参入促進により、農地利用の効率化と高度化を図り、生産性の向上に資する。」とされ、具体的には、今後10年間で担い手への農地集積率を50%から80%に引き上げることを目指しています。



農地中間管理事業の特徴は、次の通りです。

- (1) 人・農地プランに基づく農地集積を具現化すること
- (2) 出し手又は地域には、一定要件のもと農地集積協力金が交付される
- (3) 受け手には、一定要件のもと規模拡大交付金が交付される
- (4) 貸付は、「公募した候補者から相手を選定し、

農地配分計画を策定の上知事が公告する。」ことにより行われる。

また、耕作放棄地対策、借受の農地の整備といった観点においても一定の役割を果たすことが求められております。

農地中間管理事業制度の詳細は、国会の審議と合わせて策定作業が進められており、12月～1月には公表される予定となっております。

農地中間管理事業は、機構の単独では実施することが不可能であり、どうしても関係機関の皆様方へ業務委託などのご協力をいただく必要があります。当公社では、県担当部局と協議の上、平成26年2月～3月には改めて事業の詳細をお伝えする説明会を開催し関係機関のご協力をお願いすることとしております。

今号のコラム

「思い込み」

平成25年もいつの間にか師走となりました。

すでに山には降雪もあり、寒さが苦手な方にはつらい時期となりました。この寒さの感じ方にも個人差があるようで、一般的に女性の方が寒さに弱いと言われているようですが、どうなのでしょう。そして、この時期が来ると必ず思い出す童謡があります。

童謡とは広い意味では子供向けの歌を指すようですが、今の子どもたちはどんな童謡を歌っているのか、アニメソングも童謡の範疇になっているのでしょうか。

話を元に戻しますが、思い出す童謡は「雪」です。歌詞をご存知のとおり、雪やこんこ 霰(あられ)やこんこ、で始まり二番の歌詞に、犬は喜び庭駆(か)けまわり、猫は火燵(こたつ)で丸くなる、とあります。

今の犬は歌詞のように庭駆けまわるのでしょうか。もちろん犬種にもよるのですが、我が家には駆けまわれる庭はありませんし、さらに「お犬様」は正に猫のようにコタツで丸くなっています。寒さが苦手なんでしょうかね。「犬のくせに、まったく」と言ったところです。

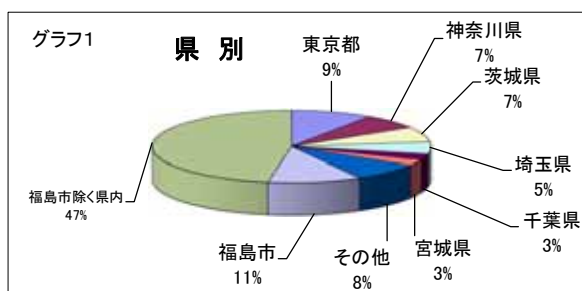


平成24年度の 新規就農相談者数は74名

当社の青年農業者等育成センターでは、新規就農希望者からの就農相談を受けておりますが、平成24年度の新規就農相談者数は前年度より12名増加し74名となっています。

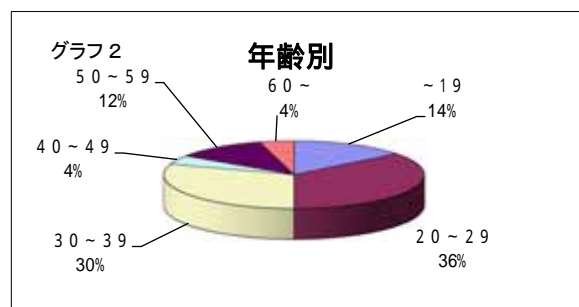
東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所事故の影響から震災前に比べて相談者数はまだ多くはありませんが、福島県の農産物が放射能検査の結果等から安全であることが消費者へ広く伝わったこと等が増加数に反映されたものと思っております。

相談者の内訳を住所別で見ると県内の相談者数が43名(58%)で約6割を占め、県外の相談者数が31名(42%)で、これまで多かった県外からの相談者数は、全体の過半数に届かない状況となっています。(グラフ1参照)



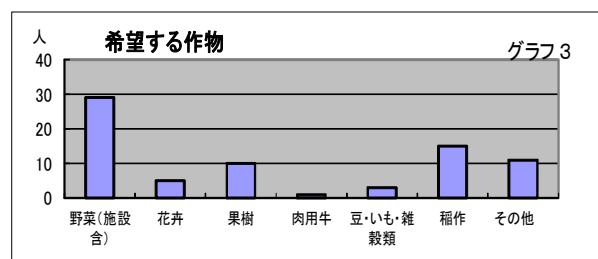
年齢別では、20代が25名、30代が21名、10代10名となっており30代までの若い世代からの相談者が全体の75%となっています。

(グラフ2参照)

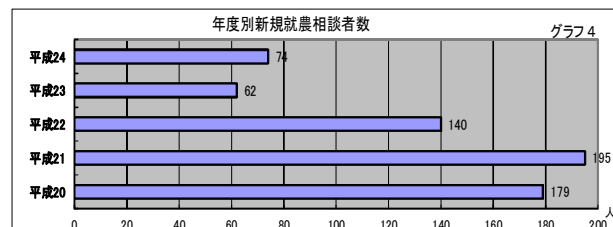


また、希望作物別では、野菜(施設を含む)29名、稲作15名、果樹10名となっており、この3つの作物で全体の54%となっており、特に野菜が多いのは、新規就農者の各種アンケート調査等の結果と同様な傾向を示しています。

(グラフ3参照)



なお、これまでの過去5年間の相談者の状況は、グラフ4のとおりとなっています。



就農給付金(準備型)

14人に13,750千円を給付

平成25年度(11月末現在)の青年就農給付金(準備型)の給付状況は、14人、13,750千円となっています。この給付金は、研修期間の半年毎に給付することを原則としており、既に上半期

でも、よく考えてみると、犬は雪の中喜んで庭駆けまわると思い込んでいたのは、案外この童謡「雪」が頭の中にあっただからではないかと思えます。こればかりではないでしょうが、いろんな面で思い込みで決めつけているものも多々あるような気がします。

女性は寒さに弱いも、思い込みの一つかもしれませんね。男性にだって寒がりはいますからね。

風邪を引かない程度に庭駆けまわり、元気で新しい年を迎えたいものです。



	研修期間			計
	1年	1~2年	2年	
H24年度 継続受給者	2		6	8
	1,500		4,500	6,000
H25年度 新規受給者	3	2	1	6
	3,750	2,500	1,500	7,750
合計	5	2	7	14
	5,250	2,500	6,000	13,750

の研修が終了し、下半期の研修を開始された方に給付をしております。給付金の受給者は、左記のとおりです。

利用者の声

「今だから伝えること」

福島県農業青年クラブ連絡協議会
会長 折笠 明憲

今年の4月より、福島県農業青年クラブ連絡協議会の会長に就任しました、折笠明憲です。

大震災から2年9か月が過ぎ、まだまだ多くの問題が残っていますが、県内外の皆様からご声援やご支援を頂いたことは、私たち農業青年クラブ員にとって大きな励みになっています。この場をお借りして深謝申し上げます。

今年度の県連イベントは、恒例のふくしま農見本市・東北農村青年会議・ふくしま農業PR活動・福島県農村青年会議(プロジェクト・意見発表、わらしべ長者的研修)等です。

今年は、震災復興ではなく「これが福島の農業～今こそ若き農業者の力・繋がりを見せる時～」を一つの目標として、多くのイベントや新しい試みをやっていきたくて活動しています。

昨年より再開した、「みんなで集まって、遊ぼうぜ!!スポーツ交流会」は、クラブ員の交流だけではなく、矢吹町の農業短期大学校を会場にして、これからの農業を担う学生たちと交流を図りました。ちょうど2学年生の資格試験と重なってしまい参加人数は少なかったですが、新たな繋がりを持つことができました。

また、長岡市で開催されたテレビ新潟主催「みんなの防災フェア」の「復興応援食堂」に出展し



乾燥調製室(受託を含め水稲 850a)の前にて

本県農産品(ドレッシング・せんべい・醤油・リンゴ・ネギ・トマト等)を展示販売しました。

併せて、来場された新潟県民の皆様にも本県への復興支援に対する感謝の気持ちを伝えました。

現在、TPPや原発問題など、福島での農業が難しくなっている中、若手農業者・新規就農者の確保が大きな課題となっています。

今だからこそ、県内の若手農業者が繋がり、これからの農業を築いていかなければならないと考えています。

私たち農業青年クラブには、多くの先輩方がいます。その先輩方が残してくれた、この繋がる場所をより楽しく、より勉強になる場所として、次の世代に引き継いでいきたいです。

そのためには、自分たちが楽しく、お互いに刺激しあい、繋がっていく姿を「魅せ」ていけたらと思っています。

(いわき農業青年クラブ連絡協議会 所属)

編集後記

朝夕だいぶ冷え込んでまいりました。

それに伴ってインフルエンザも流行ってきており、土曜日の病院はインフルエンザの予防接種を受ける人でいっぱいになっています。

インフルエンザの予防には緑黄色野菜を含んだバランスの良い食事や乳製品が良いとのこと。

年末は仕事が忙しいところに忘年会などもあり、慌ただしい毎日が続き、あっという間に年末を迎えます。

バランスの良い食事やうがいやマスクの着用などで予防し、体調管理をして良い年を迎えたいものです。
(Y・M)

お問い合わせ

あて先 〒960-8681

福島市中町8番2号 福島県自治会館8F

財団法人福島県農業振興公社 総務課

TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277

URL <http://www.fnk.or.jp>